

1 単元名 みんなの「大好き！」を集めよう ～「大好き！」音読発表会～
「くじらぐも」

2 単元の目標

- ・想像を広げて物語を楽しもうとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- ・語のまとまりや響きなどに気をつけて音読することができる。 【読むことア】
- ・登場人物の行動を中心に好きなところを見つけながら読むことができる。 【読むことウ】
- ・句読点の打ち方や、かぎ（「 」）の使い方を理解して使うことができる。 【伝国イ（オ）】

3 指導にあたって

(1) 教材観

- ・言語活動 本単元を貫く言語活動として「大好き！」を伝える音読発表会をすることを位置付けた。本教材の作者である中川李枝子さんの絵本を「大好き！」を見つけながら並行読書し、その場面を音読することによって紹介する活動である。



「くじらぐも」は、児童と同じ1年生が大空で活躍する話である。体育の時間に、空に現れたくじらぐもにみんなで飛び乗るといふ幻想の世界に入り、想像の世界で存分に遊んだ後に、また現実の時間と空間に戻ってくる。青い空に浮かぶ白い雲に乗って旅をしたいという夢が物語の中で実現する話である。読み進めていくうちに、物語中の子どもたちと同化して物語の世界に入り込んでいくだろう。みんなで手をつないでくじらぐもに飛び乗ろうとする場面、雲に乗って空を旅する場面、ジャングルジムに乗ってくじらぐもとお別れする場面では、子どもの思いをのびのびと表現できる。また、短く分かりやすい会話文で書かれているので、音読するのが心地よく、想像することを楽しむことができる教材である。

(2) 児童観

音読をすることが好きな児童が多く、楽しんで声に出して読んでいる。毎日家庭学習で音読をしたり、授業前に詩を音読したりと音読することを習慣化している。毎日の積み重ねで自信が付き、初めて読む文でも声に出してすらすら読める児童も増えてきている。一方で、声に出して読むことを苦手としていて、一文字ずつ読むため語のまとまりとして捉えられていない児童も数名いる。

「はなのみち」や「おむすびころりん」、「おおきなかぶ」、「ゆうやけ」では、人物の気持ちを考えながら音読をしたり、動作化することで気持ちを想像したりする学習をした。「はなのみち」では、お気に入りの場面を選び理由を発表した。理由については、「〇〇が～～からです」のように型を示し、

空欄を埋めることで書いたり話したりすることができていた。理由を考えられない児童がいたが、挿絵を見て話をしながら書くことができていた。「おむずびころりん」や「おおきなかぶ」では、音読劇を経験している。全体で物語の様子を考え音読の工夫を考えた後で、グループで役割を分担し人物になりきり音読をした。全体で話しながら音読に生かすことはできても、一人一人が物語の様子を感じ取り音読の工夫を表すことはまた難しい状態である。

(3) 指導観

4月に個々で「こくごボックス」を作り、年間を通して学習したことや物語のお気に入りを集める活動を行っている。学習が終わる度に、「こくごボックス」に宝物が増えていくように大切にしまっている。「くじらぐも」でも「大好き！」を集めることで読書経験と共にまた一つ宝物が増えていくことに意欲を持って臨めるようにしたい。

本単元では声に出して読むことと、文字と挿絵からイメージを膨らませて楽しむということを味わわせたい。そのために、役割読みや動作化を取り入れながら、声に出して読む活動を繰り返し行う。また、言語活動として位置付けた『「大好き！」音読発表会』に向けて、「くじらぐも」でも「大好き！」を集め、人物の行動や気持ち、選んだ理由を伝え合う場を設定し、「大好き！」に出会う喜びや紹介し合う楽しさを十分に感じられるようにしたい。「大好き！」を見つけるための手立てとして、言葉の響きのおもしろさや場面の様子、登場人物の行動、自分との比較などの観点を示し、様々な視点から自分なりに見つけられるように支援したい。そして、自分の「大好き！」を伝えるとともに友だちの「大好き！」に興味を持って聞けるように良かったところを相互評価し、読書の輪を広げられるようにしたい。本を読む楽しさ、読書によって世界を広げる喜びを感じられるように、ゴールとなる音読発表会に向け単元を通して目指す姿を児童と共有し、見通しを持たせて学習活動を展開していきたい。

(研究テーマとの関わり)

【仮説2】との関わり

本単元では、「大好き！」音読発表会を通して、声に出して読むことと文字と挿絵からイメージを膨らませて楽しむことを目指している。本時では、**大切**を「したこと」「いったこと」と提示し、人物の行動や会話について挿絵と叙述から根拠を持って考えられるように手立てをする。また、全体での話し合いにおいても「どこからそう考えたのか。」と切り返すことで根拠を明らかにして進めるようにする。

4 指導計画と評価規準 (総時数10時間)

次	時	狙い	主な学習活動	評価規準	評価の観点				
					関	調	書	読	伝
一次	1	「大好き！」について話し合い、「くじらぐも」を読んで学習の見通しを持つことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 「こくごボックス」を見ながら読書経験について話し合う。 「大好き！」音読発表会をするというめあてを確認し、モデルを見て学習の見通しを持つ。 「くじらぐも」を読んで感じたことを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 想像を広げて物語を楽しもうとしている。(発言) 物語を想像しながら読んでいる。(発言・ノート) 	○			○ウ	
二次	2	挿絵と本文を合わせて想像を広げて読む。	<ul style="list-style-type: none"> 声に出して読み、挿絵と本文の対応関係をつかむ。 4つのアイテム(いつ・どこで・だれが・出来事)を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵や文章を見ながら、場面の様子について想像を広げて読んでいる。(発言・ノート) 				○ウ	

5 本時の学習（10時間中4時）

- (1) 狙い 挿絵や叙述から想像を広げながら、くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちの様子を
読み取ることができる。
- (2) 評価規準 子どもたちやくじらぐもの行動や気持ちを想像して読んでいる。【読むこと ウ】
- (3) 準備 挿絵 本文 ワークシート 気持ちを表す言葉・様子を表す言葉（掲示）
- (4) 展開

	学習過程（配時）	学習活動	評価(◎)支援(○)留意点(・)
つかむ	1 前時の学習を ふり返り、課題 をつかむ (5分)	○「大好き！」と思った場面を振り返ろう。 ・くじらぐもとお話している場面が好き。 ・みんなでジャンプするところだったね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">くじらぐもに 飛び乗ろうとしている 子どもたちの気持ちを考えよう。></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大切 したこと いったこと</div>	・前時に全員が「大好き！」を出したことを確認して、本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">〈教えること〉 絵や文から人物の行動 や会話を読む。</div>
	2 子どもたちと くじらぐもの様 子を読む (5分)	○子どもたちは、くじらぐもに乗るために何を したかな。 ・手をつないで、丸い輪になった。 ・「天までとどけ、一、二、三。」と言った。 ・3回ジャンプした。	・叙述を基にして想像する ために、3の場面を音 読する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">〈考えさせること〉 人物の行動や会話によ って場面がどのように 変化していくか。</div>
考える	3 子どもたちの 気持ちを想像す る (20分)	○飛び乗ろうとしている時、子どもたちはどん な気持ちだったかな。 ・みんなでくじらぐもに乗りたいな。 ・力を合わせて飛び乗ろう。 ・くじらぐもが応援してくれているから頑張 ろう。 ○子どもたちは、なぜくじらぐもに乗れたのだ らう。 ・みんなで力と息を合わせてジャンプしたから。 ・くじらぐもが応援したから。 ・みんなの気持ちが高まった時、風が吹いた から。	・どこからそう考えたのか 根拠（挿絵・叙述）を明 確に話すようにする。 ・「1回目、2回目、3回 目のジャンプはどうちが うのか。」と問い返し、 子どものたちの気持ちが 高まり、声も大きくなっ ていく様子を読み取れる ようにする。
	4 まとめる (5分)	○今日の学習をまとめよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">子どもたちは、くじらぐもに乗りたいとい う気持ちで輪になって力を合わせた。だん だん気持ちが強くなって3回目のジャンプで飛 び乗ることができた。</div>	◎子どもたちやくじらぐも の行動や気持ちを想像し て読んでいる。 (発言・ワークシート) ○話し合ったことをワー クシートに書き込み、音読 に生かせるようにする。
深める	5 音読をする (5分)	○人物になりきって音読しよう。 ・子どもたちの「くじらぐもに乗りたい」とい う気持ちが伝わるように読みたい。 ・くじらぐもは一生懸命応援しているように読 んでみよう。	・ペアで相互評価し、よか ったところを伝え合う。
	6 ふりかえる (5分)	○わかったこと、できたことを振り返ろう。 ・気持ちを想像しながら読んだら、音読で工夫 することがわかった。 ・次は自分の「大好き！」を読みたい。	・本時の授業の感想を発表 し合う時間を設け、出来 た喜びや楽しい思いを共 有する。
まとめる			

(5) めざす児童の姿

子どもたちの「くじらぐもに乗りたい」という気持ちと、くじらぐもの「頑張ってほしい」という気持ちがあったから、くじらぐもに乗ることができたとわかった。

ジャンプするうちに、だんだんみんなの思いが強くなったから風がふいたと思う。自分の「大好き！」も人物の気持ちを想像して、友だちに伝わるように読みたい。

(6) 板書計画

みんなの「大好き！」を集めよう

「大好き！」音読発表会

くじらぐも

くじらぐもとびのろうとしている

子どもたちの気持ちを考えよう。

大切

したこと いったこと

「天までとどけ、一、二、三。」

やっとなんて三十センチぐらい

もったたかく。もったたかく。

「天までとどけ、一、二、三。」

もったたかく。もったたかく。

もったたかく。もったたかく。

おんどくのくふう

そのときです。いきなり、かぜが、みんなを空へふきとばしました。手をつないだまま、くものくじらにのっていました。

くじらぐものおうえん

もうすこし

力いっぱい

こえをあわせて

くじらぐもに乗りたい気持ちがだんだん高まってきた